

## 近森リハビリテーション病院 理学療法科

科長 高芝潤

### はじめに

2023 年は 1 病棟 15 名体制（1 ユニット 7～8 名）7 ユニートを基本とし、理学療法士一人あたりの 1 日の取得単位 18 単位を目標とした運営を行った。また、各ユニットにつき主任 1 名、もしくは療法士長 1 名の管理体制をとり、ユニットの運営を行った。また、新人が 5 名入職し、コロナ禍の中での教育体制充実と、学術活動の強化を模索した。

### 運営・取り組み

4 月からの人員は入院 51 名、外来 2 名の体制で運営を開始となり、スタッフ一人当たり 18 単位の訓練実施を目標に進めた。

病床稼働率は、85%程度で推移しており、提供単位数を充実するべく調整を行った。結果として、患者一人当たりの実施単位数は、平均で 3.3 単位に留まり前年度と同等（前年度 3.3 単位）となった。8 ユニットから 7 ユニット体制となり、前年度よりも少ない人数でありながら病棟の人員配置は充実できていた。しかし、コロナ感染のクラスター発生によりフロア間でのフォロー体制が制限された時期があり、単位調整が十分行えていなかった結果と考える。また、教育面では日本理学療法士協会の新生涯学習制度に準じ、院内研修を法人内で年間 8 回の研修会及び 4 回の症例検討会を計画的に実施することができた。また、学術活動については、神経理学療法学会へ 2 演題、リハケア合同研修大会に 3 演題の発表を進めることができた。

### 実績

新規入院患者のうち、理学療法を実施した患者の疾患内訳では、例年と同様に脳血管疾患が 75%と多くを占めているが廃用症候群で若干の増加を認めた。（図 1）。「月別述べ入院患者実施単位数」は平均 14420 単位と 2022 年（14512 単位）と比較し大きな差はみられなかった（図 2）。また、患者の 1 人あたりの実施単位数は 3.3 単位を取得し、例年通りではあるが患者一人あたりへの関わりは平均 1 時間以上を維持しており、訓練量を維持し訓練の質も担保できていた。

外来の「月別述べ外来患者実施単位数」は、平均 223 単位と 2022 年度（162 単位）と比較し実施単位数の増加に繋がっており、外来リハビリテーション診療料を導入により訓練頻度を確保した影響と考える（図 3）。

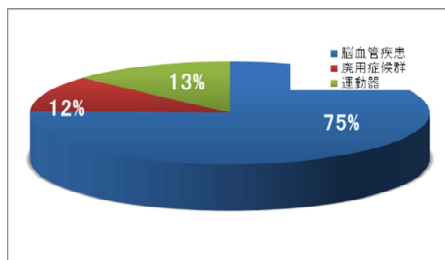


図 1 年間入院患者疾患内訳

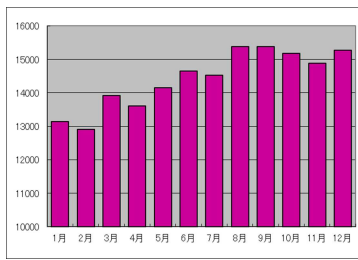


図 2 月別延べ入院患者実施単位数

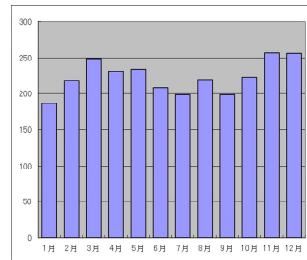


図 3 月別延べ外来患者実施単位数

### おわりに

2023 年は、2022 年に引き続き効率的な業務を目標に理学療法科の運営を進めた。病床稼働率の低下がある中で単位の維持に努めてきた。2024 年は診療報酬改定もあり、実施単位数の増加を図るとともに質の向上と患者満足度の向上を目標に、スタッフ教育の充実、個々のレベルアップに努めていきたい。

## 学術発表・講演会等

### 学会発表

演題	発表者 共同研究者	学会名	開催
療法士における病院機能による 間接業務時間の違い	高芝潤、小笠原正、和田恵 美子	リハビリテーション医療 DX 研究会第 1 回学術集会	4 月 22～ 23 日 沖縄
左半側空間無視患者に対する入院 早期からの視覚探索課題の効果	門脇一弘 安村広之、高芝潤、森岡周	第 21 回日本神経理学療法 学会学術大会	9 月 9～10 日 神奈川
脳卒中片麻痺患者の歩行における 時間的左右対称性に関わる因子	安村広之、高芝潤、森岡周	第 21 回日本神経理学療法 学会学術大会	9 月 9～10 日 神奈川
リハビリテーションスタッフのキ ャリアに対する認識	高芝潤、小笠原正	リハビリテーションケア合 同研究大会 広島 2023	10 月 26 日 広島
右上腕切断～義手作成を経験して	西森知佐、高芝潤	リハビリテーションケア合 同研究大会 広島 2023	10 月 26 日 広島
重度脳卒中患者に対する実績指数 の予測	安村広之、高芝潤	リハビリテーションケア合 同研究大会 広島 2023	10 月 26 日 広島